

## 教科書ワーク

# 答えとてびき

「答えとてびき」は、  
とりはずすことが  
できます。



光村図書版

国語 **5** 年

### 使い方

まちがえた問題は、もういちどよく読んで、  
なぜまちがえたのかを考えましょう。正しい  
答えを知るだけでなく、なぜそうなるかを考  
えることが大切です。

かんがえるのって おもしろい  
名前を使って、自己しようかい

### 2・3 ページ 基本のワーク

- 1 ① そうぞう ② けいけん
- 2 ① 想像 ② 経験
- 3 たなかみずき
- 4 ① かんがえる
- 2 ウ
- 3 きもち・まえよりもっと すきになる
- 4 ア・エ

### てびき

- 4 ① 「かんがえる」ことは、「どこかとおくへいく」このように、「おもしろい」と言っています。
- 2 初めての土地に行くと、初めて見る景色に出会えます。同じように、知らなかったことについて考えると、新たな物事が見えるようになってくるのです。
- 3 「しらないきもちが かかれて／まえよりもっと すきになる」と続きます。人とけんかをするなどで、かくれていた気持ちちはつきりして、前よりもっとその人のことを好きになるので、「けんかするのも いいみたい」だということです。
- 4 「このきょうしつは／みらいにおかっとなでいる」、「このがっこうは／みんなのちからで そだつてく」から、作者の「がっこう」についての考えが読み取れます。

銀色の裏地  
図書館を使いこなそう

### 4・5 ページ 基本のワーク

- 1 ① しんじょう ② いんしょう ③ ぜったい
- 4 あつ ⑤ しょう ⑥ しょうじょう
- 7 よろこ ⑧ りかい ⑨ ないよう
- 10 ぎじゅつ ⑪ てきせつ ⑫ きよか
- 13 ふくすう
- 2 ① 厚 ② 賞状 ③ 喜 ④ 内容 ⑤ 技術
- 6 許可
- 3 ① ア ② イ
- 4 ① ウ ② イ ③ ウ ④ ア ⑤ ア ⑥ ウ
- 7 ア

☆ 内容どうがもう!  
(順に) イ→ウ→ア

### 6・7 ページ 練習のワーク①

- 1 ① あかね ② 希恵 (①・② 順序なし)
- 3 理緒
- 2 ア
- 3 例 理緒の学校はどの学年も二クラスだから、三人が一人ずつになることは絶対にないこと。
- 4 頭・心
- 5 例 あかねや希恵に自分の気持ちを分かちてもらえてうれしい (気持ち)。
- 2 ① うかんだばかりのえみが、たちまち消える。
- 6 だからってそれでいいってことにはならない



## てびき

2 ①の直後に「不満をぶちまけた」とあり、理緒が不満でいっぱいだったことが分かります。イ「こまりはてる」は、「ぶちまけた」という、あらあらしい様子には合いません。

4 理緒は、三人がそれぞれ別のクラスになることはありえないと頭(＝理性)では分かっています。しかし、心(＝感情)では受け入れられずにいます。

5 (1)「理緒の気持ち、すぐ分かる。」と言われ、理緒は「分かってくれるんだとうれしくて」えみをうかべました。

(2)「えみがうかんだ」↓「えみが、たちまち消える」という対比的な表現から、理緒のうれしい気持ちがすぐに消えてしまったことが読み取れます。

6 あかねと希恵は、これからも遊べるのだからいいではないかと言っています。これに対して理緒は、「それでいいってことにはならない」と心の中で反発しました。理緒にとっては、三人が同じ立場でいることが重要なのです。

7 理緒の気持ちが分かると言っていたあかねと希恵ですが、理緒の本心は分かっているようです。仲よし三人グループだったはずなのに、クラスだけでなく気持ちのうえでもはなればなれになってしまったようで、理緒はさびしさやつまらなさを感じています。

## 8・9ページ 練習のワーク②

1 土田・おいしそう・楽しそう

2 (1) イ

(2) 例 すなおに喜ばなくて、そんな自分にもやもやる気持ち。

3 (1) 例 おこっているような、こまっているような(、そんな)顔。

4 (2) ウ

例 しいたけを、これはまだ食べたことのない、世界一おいしいものだと思像している。

5 例 何度もうなずきながら答える様子。

## てびき

2 (1) 理緒にとって、高橋さんが全然つんつんしていないのは、「発見」でした。それまでは、「つんとすまして」(教科書28ページ11・12行)話しかけにくい——そんなふうに思いこんでいたのです。

(2) ①の直後をまとめます。すなおに喜べない理由は理緒自身にも分からないようですが、あかねと希恵との関係もえいきょうしていると考えられます。文末は「……もやもやした。」でも正答です。

3 (2) 理緒が「おこっているような、こまっているような、そんな顔」をしていたのは、すなおに喜べない自分にもやもやしていたときです。この気持ちが顔に出てしまい、土田君に指てきされたのです。

4 直前の高橋さんの発言に着目します。「こ

れはまだ……」の「これ」が「しいたけ」を指していると分かるようにまとめましょう。

文末は「……想像すること。」でも正答です。

6 文章にえがかれている、高橋さんの行動や表情、発言などの全てから総合的に考えます。高橋さんは、給食をおいしそうに食べ、楽しそうにおしゃべりをしています。ここから、元気ではずつとした性格が読み取れます。また、「しいたけが入っていたから」と聞けば「わたしも苦手」と共感し、どう乗りこえるのかをひろうしました。それが他の人の参考になることを願っている様子も読み取れます。ここから、周りを気づかう思いやりのある人物であることも分かります。イは「負けずらいな」が合いません。ウは「はずかしがりやで」が合いません。

## 漢字の成り立ち

## 10・11ページ 基本のワーク

1 ① さくら ② いちがん ③ どう ④ やぶ

⑤ ほか ⑥ がんか ⑦ ただ ⑧ そふば

⑨ せきはん ⑩ じゅんぴ ⑪ ぼうえき

⑫ こくさい

① 構図 ② 修復 ③ 停車 ④ 清潔

(順序なし) ① 山・月・門

② 上・三・末 ③ 岩・鳴・明

④ 清・銅・飯

- 2 ①名 ②位 ③好 ④品
- 3 ①祭・ド ②官・食 ③求・ヲ ④門・ロ

### てびき

- 3 ① ②「末」は「木」の上の部分に「一」の印をつけて、「細いはしの部分」を表します。
- ③「岩」は、「山」と「石」を組み合わせ、  
「山にある大きな石」を表します。
- 「鳴」は、「口」と「鳥」で、「鳥がなく」という意味を表します。「明」は、「日」と「月」を組み合わせ、「あかるい」という意味を表します。
- ④「清」は、「青」が「セイ」という音を、「シ」が「水」の意味を表します。「銅」は、「月」が「ドウ」という音を、「多」が「金属」を表します。「飯」は、「反」が「ハン」という音を、「食」が「食べる」ということを表します。
- 2 ①「タ」と「口」を組み合わせ、「大方のうす暗くなったとき、口から声を出して名のる」という意味を表します。
- ②「人がある位置に立つこと」を表します。
- ③「女」と「子」を組み合わせ、女性せいが子どもを大切にする様子を表します。
- ④「ロ」を三つ組み合わせ、「多くの人」や「多くのもの」を表します。
- 3 ①「祭」が「サイ」という音を、「ド」が「もり土」の意味を表します。「院」「陸」「階」などの「ド」も、同じ意味を表します。

表します。

- ②「官」が「カン」という音を、「食」が「食べる」という意味を表します。「館」は「食べ物」が用意されている建物」の意味です。
- ③「求」が「キュウ」という音を、「ヲ」が「玉」の意味を表します。
- ④「門」が「モン」という音を、「ロ」が「言葉」という意味を表します。

## 季節の言葉1 春の空

12・13 ページ

### 基本のワーク

- ① ① 明け方  
白：空 紫：雲
- ② ① 例よく  
ウ
- ③ ① ウ ② ア ③ イ  
④ ③ 例くもった  
ウ

### てびき

- ① ①「春は明け方がよい。」とあります。
- ② ② 白：「だんだん白くなっていく山に近いところの空」とあります。 紫：「紫がかかった雲が細くたなびいている」とあります。
- ③ 「だんだん白くなっていく」「少し明るく

なって」「細くたなびいている」などから、作者が見つけているのは、日の出とともに少しずつがたを変えていく春のおだやかな風景だと分かります。

### 2

① この「のどか」は、空が晴れて、おだやかな天気である様子を表しています。「晴れ」などでも正答とします。

### 2

② 草の上に横になっていた作者は、晴れておだやかだったので、気持ちがよくなり、ついうとうと寝てしまったのです。

### 3

③ 「花曇」は、春に桜のさくころの、くもりの天気のことです。

### 4

④ 「かがやく」は、おいたゆで玉子を指しています。きれいにむいたゆで玉子は表面がつるつるしています。作者は、春のくもりの日でも、つやつやとかがやくゆで玉子に見入っています。

### 3

③ 「花冷え」は、桜のさくころに、急に冷えこむことを表します。「花」は「桜」を指しています。

## 銀色の裏地

### 漢字の成り立ち

14・15 ページ まるごとテスト

### 1

① しばふ・くもり空

### 2

② (1) 例くもっている、雲の上には太陽があり、雲の裏側は銀色にかがやいている情景。



(2) 例「こまったことや、いやなことがあっても、いいことはちゃんとあるということ。」

3 ア

例「とてもすてきなことだ」

(2) 例「今朝お母さんが、くもり空なのに「今日もいい天気。」と言ったこと。」

5 はずむような声が出ていた。

2 ①イ ②エ ③ウ ④ア

てびき

1 2 高橋さんは、「銀色の裏地」という言葉が表す内容を説明した後、この言葉がどういうメッセージをもつものなのか話しています。このとき早口になったのは、このメッセージをさりげなく理緒に伝えたかったからなのでしょう。

3 高橋さんの「こまったことがあっても、いやなことがあっても、いいことはちゃんとあるんだって」という言葉を聞いて、理緒は「もしかして、わたしの気持ちに気づいていたの。」と思いました。高橋さんは理緒に何かいやなことがあったのだと気づき、いいこともあるよ、とはげましてくれたのかもしれない——理緒はそう思ったのです。

4 (2) 「銀色の裏地」とは、くもり空でも銀色にかがやいている雲の裏側であり、いやなことの中にも必ずある「いいこと」です。理緒はこのあと、今朝のお母さんのおもしろい発言を思い出しています。

2 「板」は「反（ハン）」、「味」は「未（ミ）」が音を表す部分です。  
3 「男」は、「田」んぼで「力」仕事をする人という意味です。

きつて、きつて、きつてみち

16・17 ページ 基本のワーク

1 ①しつもん ②ほうこく ③しよぞく ④たし ⑤いしき

2 ①質問 ②報告 ③所属 ④意識

3 ①ア ②イ ③ウ ④エ

4 ①例「ピアノを習うようになったきっかけ」

2 ①ウ ②ア ③イ

てびき

3 ①話し手の答えを聞きながら、質問の順番を変えたり、質問をその場で加えたりすることによって、より生き生きとしたインタビューになります。

2 話し手は、きき手が知りたいことに最初に答えます。

3 言葉を全て書きとめるのではなく、要点をメモするようにします。また、聞き取れなかったことは、きき手や話し手に後で聞いて確かめます。

4 1 「絵が上手」「学級委員」「ピアノを習っている」という三つの話題の中から「ピアノを習っている」という話題を選び、そこから広げた「きっかけ」「目標」についての質問を考えます。  
2 初めに話し手のことをしようかいいし、次に話題の中心になったことを報告し、最後に感想を話しています。

「練習」見立てる／言葉の意味が分かること  
「情報」原因と結果

18・19 ページ 基本のワーク

1 ①げんいん ②せいぶ ③まるた ④つく ⑤に ⑥かぎ ⑦りゅうがくせい

2 ①ひょうげん ②ちよくせつ

3 ①原因 ②造 ③似 ④限 ⑤表現 ⑥直接

4 ①毎日練習することによって、ピアノが上手になった。

2 おなががいたくなった。それは、ケーキを食べすぎたからだ。

3 夜ふかししたせいで、授業中にねむくなった。

4 ①イ ②イ ③ウ ④ウ ⑤イ ⑥ア ⑦イ ⑧イ

☆ ☆ 内容をつかもう！

〈見立てる〉イ

〈言葉の意味が分かること〉イ・ウ・ア



てびき

- ①「……によって」、②「……からだ。」、  
③「……せいで」の前が「原因」です。

20・21 ページ 練習のワーク①

- 1 あるものを別のものとして見る  
想像力  
想像力・(G) 見立てる (C)  
作った形・実在するもの  
イ  
ア  
(1) ア  
(2) ウ

てびき

- 1 ①段落に、「『見立てる』とは、……ということである」と説明されています。  
すぐ後に「……からだ。」と原因がのべられています。  
④段落は、同じ形のあや取りにつけられた名前が日本各地でちがっている例です。⑤段落は、同じように世界各地でもちがっている例です。筆者は、複数の具体例を挙げて、自分の考えに説得力をもたせています。  
(1) ②③⑤段落は、あや取りの例です。さらにそのうちの④⑤段落は、③段落の具体例になっています。  
(2) この文章は、「話題と考えをしめす」↓「例を挙げて説明する」という構成になっています。

22・23 ページ

練習のワーク②

- 1 どこまで使えるのか  
かんじやった・ふんじやった  
イ  
広げすぎた  
例1 日本語では、「スープは「飲む」と表現することが多いため。  
例2 日本語では、「スープを「食べる」とはあまり表現しないため。  
イ・ア  
イ  
6  
7

てびき

- この文章は、前半で小さな子どもの言いまちがい、後半でアメリカ人留学生の言いまちがいの事例を挙げています。どちらも、言葉を学んでいくときに起きる事例です。  
1 直前の一文「一つの言葉がどこまで使えるのか、……確かめることはできません。」の中に、「言葉の意味のはんい」を言いかえた言葉があります。  
2 直前の部分から、どんな言いまちがいかを読み取ります。  
3 「『ふむ』も『かむ』も、……似た意味の言葉である」とのべられています。  
4 直後に「自分が覚えた言葉(『ふむ』を、別の場面(『かむ』がふさわしい場面)で使おうとしてうまくいかなかったこと」が原因だとあります。つまり、「ふむ」という「言葉の意味のはんいを広げすぎたこと」が原因

で、その結果「歯でくちびるをふんじった。」という言いまちがいが起きたのです。

5 「日本語では、スープは『飲む』と表現することが多いため」と、理由ののべられています。

6 「食べる」を「eat」と同じ感覚で使ったため(『原因』)、「スープを食べる」という言いまちがいが起きたのです(『結果』)。

7 英語では、ものを食べる動作を表す「eat」をスープに使いますが、日本語では「スープを食べる」とは言いません。このように、英語の「eat」は、日本語の「食べる」以外の意味で使われる場合もあるのであります。

敬語

24・25 ページ

基本のワーク

- ① おう ② おおせい ③ ひょうが  
④ れきし ⑤ しんかんせん ⑥ まね  
① 大勢 ② 歴史 ③ 新幹線 ④ 招  
① ア ② ウ ③ ア  
① ア ② イ ③ イ ④ ウ ⑤ ウ ⑥ ア  
⑦ イ  
③ ① けんじょう語 ② 尊敬語  
③ ていねい語  
⑤ ④  
① ア ② イ ③ ア  
① いらっしゃるそうです  
② うかがいました

6

- ③ いただきました  
④ おっしゃった

① 例 お持ちする

② 例 お話しになる

〔または話される・おっしゃる〕

てびき

3

2

敬語は、その動作をだれがするのか、と考えると、分かりやすくなります。目上の相手の動作なら尊敬語、自分や身内の者の動作ならけんじよう語です。ていねい語は「です」「ます」「ございます」などです。

② 「いらっしゃる」は「中村様」の動作で、尊敬語です。

③ 「お手紙」は先生が書いたものなので、尊敬語です。

④ 「ごあいさつする」は、母という身内の者の動作で、けんじよう語です。

⑤ 「いただく」は、ここでは「もらう」という意味です。自分の動作で、けんじよう語です。

⑦ 「帰られる」は先生の動作で、尊敬語です。

③ ① 「お——する」という言い方は、けんじよう語です。

② 「お——になる」という言い方は、尊敬語です。

③ 「——ます」という言い方は、ていねい語です。

④ ① 自分の動作なので、けんじよう語の「うかがう」を使います。「いらっしゃる」は「行く」の尊敬語です。

② 「招く」は自分の動作なので、けんじよう語の「お招きする」を使います。

③ 「書いた」は先生の動作なので、尊敬語の「お書きになった」を使います。

⑤ ① 「いる」は先生の動作なので、尊敬語に直します。「いる」の尊敬語は、「いらっしゃる」です。

② 「きく」は自分の動作なので、けんじよう語に直します。「きく」のけんじよう語は、「うかがう」です。

③ 「食べる」は自分の動作なので、けんじよう語に直します。「食べる」のけんじよう語は、「いただく」です。

④ 「言う」は先生の動作なので、尊敬語に直します。「言う」の尊敬語は、「おっしゃる」です。

⑥ ① けんじよう語に直すには、「お——する」という形にします。

② 尊敬語に直すには、「お——になる」、「——れる（られる）」という形にします。

## 言葉の意味が分かること 敬語

26・27 ページ まともなテキスト

1

① 日本語…いくつかの言葉

・韓国語…分け方

・中国語…全てちがう言葉

2 一対一

③ 広がり・はんい  
(順序なし)

④ ① 「かむ」と「ふむ」が似た意味の言葉だということ。

⑤ ① 例 どうしてスープは「食べる」ではなく、「飲む」というのかということ。

⑥ ② 言葉・ものの見方

① おむかえする

② くださった

③ ご入学

てびき

1

① 一つ目の段落で、日本語・韓国語・中国語の言葉の言い表し方のちがいがのべられています。

② 前の文で、「物や様子、動作と、言葉とを、一対一で結び付けてしまいがちです」とのべられています。

③ 前の文に、「言葉の意味には広がりがあり、言葉を適切に使うためには、そのはんいを理解する必要があります」とのべられています。

④ 直前に「これらの例は」とあるので、その前から二つの事例を読み取ります。一つは、『かむ』と『ふむ』が似た意味の言葉だ」と考えることで、もう一つは、『どうしてスープは『食べる』ではなく、『飲む』というのか』と考えることです。

⑤ 「言葉の意味は面である」という内容は、文章中にくり返し出てきます。筆者がこの



内容をくり返す意図を読み取りましょう。

筆者は、「言葉の意味は面である」と考えることで、「わたしたちが自然だと思っ  
ているものの見方が、決してあたりまえでは  
ないこと」に気づかせてくれるということ  
を言いたいのです。

6 この文章の要旨になることは、文章の後  
半にのべられています。一つは、「言葉を  
学んでいくときには、言葉の意味を『面』  
として理解することが大切になる」という  
こと、もう一つは、「言葉の意味を『面』  
として考えることは、ふだん使っている言  
葉や、ものの見方を見直すことにもつな  
が」ということです。

2 ①自分の動作なので、「お——する」とい  
うけんじょう語に直します。

②先生の動作なので、「くださる」という尊  
敬語を使って直します。

③物事を表す言葉に「お」や「ご」を付けて、  
相手への敬意を表します。

## 日常を十七音で

漢字の広場① 四年生で習った漢字

28・29 ページ

## 基本のワーク

① く ② にちじょう ③ じゅんじょ

① 句 ② 日常 ③ 順序

③ ① 季節 ② 分類 ③ 戦争 ④ 便利 ⑤ 要望

⑥ 参考書 ⑦ 借 ⑧ 説明 ⑨ 静 ⑩ 席

① 区別 ② 極力

1 (1) 季語：鯉のぼり 季節：夏

(2) 空の長さ

2 すずらん・風

3 ウ

4 チチポポ

5 ① せみ〔または蟬〕 ② 鳴く

## てびき

4 ① 五月に立てる「鯉のぼり」は、「夏」  
の季語です。作者は、ならんだ鯉のぼりを  
見上げて、「空の長さ」を感じています。  
なお、「日本の」は、「にほんの」ではなく  
「にっぽんの」と五音でよみます。

2 すずらんの花は、すずのような形をして  
います。その花が風にゆれている様子を、  
「りりりりり」とすずが音を立てるよう  
なかるやかな調子で表現しています。

3 すすきのほは軽そうに見えます。ところ  
が、折り取って手に持つと、そのほには  
思ったよりも重みを感じられたのです。そ  
の意外な気持ちに「はらりとおもき」と表  
しています。また、この俳句は全て平仮名  
で書かれています。これにより、すすきの  
ほのやわらかさが表現されています。

4 月と花（桜）の美しい夜に鼓の音がひび  
く様子を、「チチポポ」という特徴のある  
表現を用いて表しています。

5 Eの俳句の最後には「せみ」という言葉  
が、Fの俳句の最後には「鳴く」という言  
葉が置かれています。ここでは、最後に置

かれた言葉が、作者の注目したものを表す  
働きをしています。

## 古典の世界（一）

「情報」目的に応じて引用するとき

30・31 ページ

## 基本のワーク

① こてん ② ぶし ③ しりょう  
④ ちようさ

② ① 古典 ② 武士 ③ 資料 ④ 調査  
① イ ② ウ ③ イ

④ (順序なし) ① ア・イ・エ ② イ・ウ  
(順序なし) ① イ・ウ ② ア・エ

⑤ ① ウ ② イ ③ ア  
② ① ウ ② ア ③ イ

## てびき

4 ① 「竹取物語」は、平安時代の初め（九〇一  
年ごろ）に書かれたとされる物語です。日  
本で最も古い物語といわれ、作者は分かっ  
ていません。

② 「平家物語」は、鎌倉時代の初め（一二四〇  
年ごろ）にまとめられたとされる作品です。  
作者は分かっています。

5 ① 「方丈記」は、鎌倉時代の初め（一二二二  
年）に書かれた作品で、作者は鴨長明です。  
② 「徒然草」は、鎌倉時代の末から室町時代  
の初め（一三三一年ごろ）に書かれた作品  
だとされ、作者は兼好法師です。

6

② 引用するときは、元の文章を一字一句まで正確に書き写します。

③ 引用するときは、何の本から引用したかが分かるように、出典となる本の情報(筆者名、書名、出版社名、発行年、ページ)を記録しておきます。インターネットで調べた場合は、ウェブサイト名、そのサイトをみた日付などを記録しておきます。

## 32・33 ページ

### 練習のワーク

1

(一) さめきのみやつこ(一)

(2) (1) 例竹林の中に、根元の光る竹が一本あったこと。

(3) 九センチメートルぐらい

(4) ウ

2

(1) 音

(2) 諸行無常

(3) ア 春の夜の夢

(4) イ

### てびき

1

(1) 「竹取の翁」の名前は、「名をば、さめきのみやつことなむいひける。」から分かります。

(2) 竹林の中に一本だけ他とはちがう、根元が光る竹があったので、翁は不思議に思ったのです。

(3) 「三寸ばかりなる人」の現代語訳に当た

る部分を書きぬきます。

(4) 「うつくし」は「かわいらしい」、「あたり」は「すわっていた」という意味です。現代語とは意味がちがうので注意しましょう。

2

(1) 現代語訳に「鐘の音」とあります。

(2) 「諸行」は「全ての物事」、「無常」は「変わらないものではなく、あらゆるものは変化し続ける」という意味を表す言葉です。

(3) 現代語訳に「おごり高ぶる人」とあります。「おごる」は思い上がっていい気になることをいいます。

(4) 「春の夜の夢」は、はなやかではあるけれど、長くは続かず、はかないものたえとして使われます。

(5) 「たけき者もつひには滅びぬ」は、現代語訳で「強い者も最後には滅びる」とあります。この「平家物語」の内容は、「勢いのさかんな者」も、「おごり高ぶる人」も、「強い者」も、全ていつかは消え去ってしまふ、というものです。

## 34・35 ページ まとめのテスト

1

(1) 絶えること・同じ水

(2) あわ

(3) イ

2

(1) することがなく、たいくつである  
(2) とりとめもないこと・書きつけている

2

(3) ウ  
(順序なし)

・江戸時代かそれ以前に建てられて、現在まで残っている天守は、国内に十二しかありません。

・松本城、犬山城、姫路城などが有名で、国宝や国の重要文化財に指定されています。

### てびき

1

(3) 「またかくのごとし」は、「これと同じだ」という意味です。「これ」は、前でのべられている「川の流れ」と「あわ」を指しています。どちらも、ずっと同じままではなくうつりゆくものだとなりました。作者は、世の中の間人間も住居も、川の流れやあわと同様に、はかないものだと感じています。

2

(2) 作者は、することがなくたいくつなので、一日中硯に向かって、心に浮かぶことを文章に書いています。そうしてできた作品が、「徒然草」だということです。

(3) 「ものぐるほし」は、「心がみだれて、落ち着かないさま」を表します。文章を書いていくうちに、気持ちが高ぶってきたのです。

2

「江戸時代かそれ以前に建てられて、現在まで残っている天守」と、「明治時代以後に再建されたもの」について書かれています。ここから、前者について書かれている部分を引用します。



## みんなが使いやすいデザイン

36・37 ページ

### 基本のワーク

- 1 せいべつ 2 ひじょうぐち 3 そうごうてき

- 2 性別 2 非常口 3 総合的

- 3 ウ 2 イ 3 ア

- 4 ウ 2 エ 3 イ 4 ア

- 5 ア 2 イ 3 イ 4 ア

- 6 (右から順に) 4・2・3・1
- 7 小見出し 2 区別 3 まとめ

### てびき

- 5 2 関連した内容の情報を同じまとまりにすることで、情報が整理されて分かりやすくなります。

- 7 2 他の人の書いた文章を引用するときは、自分が書いた文章とはつきりと区別し、引用した本の情報などをしめすことが必要です。

## 同じ読み方の漢字

38・39 ページ

### 基本のワーク

- 1 はか 2 はか 3 こうしゃ 4 おうふく

- 5 しゅうかん 6 ひりょう 7 せいし

- 8 ぎゅうにく 9 しやざい 10 ぼうふう

- 11 こうせき 12 こうかい

- 3 公演 2 防風林 3 功績 4 志 (右から順に)

- 1 熱い・暑い・厚い

- 2 量る・計る・測る

- 3 冷める・覚める

- 4 表す・現す

- 5 ア成果 イ生家

- 2 ア明暗 イ名案

- 3 ア校庭 イ高低

- 4 ア会報 イ解放

- 5 ア器官 イ期間

- 1 以 ↓ 意

- 2 間 ↓ 刊

- 3 身 ↓ 信

- 4 園 ↓ 演

### てびき

- 3 1 物の温度は「熱い」、気温は「暑い」、物の厚みは「厚い」と使い分けます。

- 2 重さや量は「量る」、時間は「計る」、長さや大きさは「測る」と使い分けます。

- 4 表現することは「表す」、出現することは「現す」と使い分けます。

- 4 1 ア「成果」は、「あることをしてできた、よい結果」という意味です。

- 4 イ「解放」は、「しばられていたものを解放して自由にする」という意味です。

- 5 ア「器官」は、「生物の体の中で、ある決まった働きをする部分」という意味です。

- 1 「考えていたのとはちがった」という意味が当てはまるので、「意外」と表します。

## 季節の言葉2 夏の夜

40・41 ページ

### 基本のワーク

- 1 夜 2 1 月

- 2 たくさん (または多く)

- 3 一ぴきニひき (または二つ二つ)

- 4 雨 (など)

- 2 太陽 (または日)・日かげ (またはかげ)

- 3 例 終わる

- 4 イ・ア

- 3 1 イ 2 ウ 3 ウ

### てびき

- 1 1 「夏は夜がよい。」とあります。

- 2 1 「月の出ているころの風景は言うまでもなくよい」という意味です。

- 2 2 太陽が真上からやややかたむき、短い日かげが生まれた様子を表しています。

- 2 「毎週発刊される」という意味が当てはまるので、「週刊」と表します。
- 3 「自信をもっている作品」という意味が当てはまるので、「自信作」と表します。
- 4 「公開の場所で演じる」という意味が当てはまるので、「公演」と表します。

3 風が吹いて「涼しく」感じられるのは、夏が終わりに近づいているからです。

4 「どの子にも」とあるので、子どもは一人ではなく、何人かいることが分かります。子どもたちが涼しい風に吹かれて、気持ちよさそうにしている様子を表しています。

3 ②「西日」は、西の空にかたむいた太陽やその光のことで、特に真夏の夕日を指します。

## みんなが使いやすいデザイン 同じ読み方の漢字

### 42・43 ページ まようびテスト

1 センサー式(の)じゃぐち

〔またはセンサー式で、手を差し出すだけで水が出てくるじゃぐち。〕

2 例調べ方〔または調べた方法〕

① インタビュー

② 本やインターネット

4 (一) 体に負担がかからないので、力の弱い人や、手にけがをしている人も使うことができる(一)

5 ア

6 ウ

7 センサー式(の)じゃぐち(の写真)  
(右から順に)

① 負う・追う

② 機械・器械・機会

### てびき

1 4 引用部分は、「」でかこんで他と区別して書いています。

5 本の内容(「力の弱い人でも使える」とお年よりの話(「指に力が入りにくくても使える」)は、関連する内容になっています。7 話題の中心となっているものの写真を入れるのが適切です。

2 ① 自分で引き受けることは「負う」、後をついていくことは「追う」と書きます。

② 工場で使うような複雑な道具は「機械」、人が手で動かすような簡単な道具は「器械」、あることをする、ちょうどよい時は「機会」と使い分けれます。

## 作家で広げるわたしたちの読書 モモ

### 44・45 ページ 基本のワーク

1 ① むちゅう ② たんぺんしゅう ③ けん

④ だんげん ⑤ きょうかいせん ⑥ かど

⑦ じたい ⑧ ぎやくほうこう ⑨ ばん

⑩ さゆう ⑪ あつりよく

2 ① 夢中 ② 険 ③ 断言 ④ 事態 ⑤ 判

⑥ 圧力

作家・あらすじ・友達

3 ① ア ② ウ ③ ア ④ イ ⑤ イ ⑥ ウ

⑦ ア ⑧ ウ

☆ 内容をつかもう!!  
(右から順に) イ・ウ・ア

### 46・47 ページ 練習のワーク

1 カメ・モモ

2 橋・トンネル・地下室

3 ウ

4 例モモが、ややこしい道を、カメの後に続いて、一步一步、しんぼう強く歩いていったこと。正確に知っている

5 その文字をやつと読み取る

6 例すぐ後ろに現れる、三人の灰色の男たちに見つかってしまうから。

7 イ

### てびき

3 モモは、「自分を元気づけるため」に「心配なんかしてないわ。」と言いました。「本当は少し心配になっていたから」このように言ったのです。では、モモは何が心配だったのでしょうか。モモは「いたい、どこにあたしを連れてゆくの。」とたずねますが、カメが案内する道は、「ますますきまように、ますますややこしく」なるばかりです。モモは、どんな所に連れて行かれるのか心配になっているのです。アは、モモは灰色の男の大軍に追われているとは「夢にも思いませんでした」とあるので、まちがいです。

4・5 カメは、「いつ、どこに追っ手が現れるかを、前もって正確に知っている」ので、



タイミングをはかり、道を選んでモモを案内しました。モモは、そんなカメの後をしんぼう強く歩いていたので、灰色の男たちに見つからずにすんだのです。

6 「シンパームヨウ」という文字を、モモはやっと読み取っています。

7 「シズカニ」という文字が光った後、「すぐ後ろの方を、三人の黒いかげが通りすぎ」ています。この「黒いかげ」は、灰色の男たちだと考えられます。カメは、灰色の男たちがすぐ近くに現れることを知っていたので、話し声で見つかってしまったまいよう、モモに注意したのです。答えは「灰色の男たちが近くにいるから。」「灰色の男たちに見つからないようにするため。」などでも正答です。

48・49 ページ

まももはてすと

1 ウ

2 (順序なし)

・例 (水の中の) はげしい流れ。

・例 強くおし返す風。

3 例 何とかして進もうと、必死になる様子。

4 苦もなく・頭で考える・息をする・何かを感じ

5 道のおくに、ななめに立っていた建物

6 例 金属のとびらが、ものすごく大きく見え

7 例 とびらの上の表札に記された文字を読んでいた。

てびき

1 ほんの二、三秒で路地の行き止まりの建物に着きそうになっていったのはモモではなく、カメなので、アは合いません。また、イのうなことは書かれています。「きみようなことに、自分の声が聞こえませんか。」とあるので、ウが適切です。

2 直前の「まるで……ような感じがします」の部分でたとえられているものをとらえましょう。「水の中をはげしい流れに逆らって進む感じ。」「強くおし返す風に立ち向かっているかのような感じ。」という書き方でも正答です。

3 モモが生けんめい進もうとしている様子を とらえましょう。「何とかして」「必死になつて」などの表現を使ってまとめます。

4 「さかさま小路」は、その名前のとおり、何もかも逆向きで、「後ろ向き」、つまり逆向きで歩くと前に進めるのです。

6 直前に「彫像の付いた緑の金属のとびらが……ものすごく大きく見えたのに、ちよつとびつくりしました。」とあります。モモは、こんなに大きくて重そうなどびらを自分の力で開けられるだろうか、心配になったのです。

7 初めの場面で、モモは「さかさま小路」という標識の文字を読んでいた。「とびらの上に、また表札を見つけた」モモは、今度は「どこにもない家」と記された文字を「ちよつと立ち止まって」読んでいます。

かぼちゃのつるが／われは草なり  
どちらを選びますか

50・51 ページ

基本のフック

1 ① せつとくりよく ② くら

2 ① 説得力 ② 比

3 ① 願 ② 結・付 ③ 選 ④ 司会

4 ① イ ② ア ③ イ

5 (順序なし) はい上がり・葉をひろげ  
かぼちゃのつる

2 ① 開いて  
ウ

てびき

5 2 14行目の「小さなその先端」も、同様にかぼちゃのつるの先を指しています。

3 つるの先が竹にしっかりとまき付く様子を、「しっかりとぎつて」と表現しています。

この「にぎつて」は、かぼちゃのつるの先を手にとえた表現です。竹にまき付いたつるは、にぎつた手に力をこめるようにはい上がり、屋根や竹の上にまでたどり着くと、今度は「手を開いて」空をつかもうとしています。

4 「はい上がり」「葉をひろげ」という表現が、何度もうり返されています。これにより、かぼちゃのつるがはい上がり葉を広げ、休まずまたはい上がる様子が伝わります。そして、ついには「いっせいに／赤子のよいうな手を開いて」空にまでのびようとして

いて、勢いは止まりません。これに合うものはウです。

## 52・53 ページ まるごとテスト

### 1 七・五

われは草なり

伸びられる日は

伸びるなり

イ

例 (自分の) 緑色が深まること。

例 美しくて、楽しいもの。

ア

Aさん…× Bさん…○ Cさん…○

### てびき

1 「われはくさなり(七音)」「のびんとす(五音)」でひとまとまりになっています。

す。続けて「のびられるとき(七音)」「のびんとす(五音)」でひとまとまりです。

詩全体がほぼこのリズムでできていて、このようなリズムを「七五調」といいます。

2 第一連から第三連は、連の初めに「われは草なり」とあります。第四連は、連の中心に「われは草なり」とあります。

3 伸びられぬ日は／伸びぬなり

伸びられる日は／伸びるなり

このように、とてもよく似たつくりになっていて、伸びられない日と伸びられる日が対比されています。

4 「緑なり」は、第二連でくり返されています。

「緑なり(＝緑である)」と力強く言い切り、「全身すべて」「毎年かはらず」緑である自分に「あきぬなり(あきることがないのである)」と、またきっぱり言っています。「われ」は、緑である自分に満足し、どうどうとしています。

5 直前の「緑の深き」に着目しましょう。

「われ」はすでに緑色をしています。さらにその緑色が深まることを願っているのです。緑色が深まるということは、緑色がこくなる＝内面がじゅうじつするといったことを意味します。つまり、「われ」は、第一連でくり返されていたように体が成長して伸びることだけでなく、心が成長して深まることも願っていると考えられます。

6 「ああ 生きる日の」という表現は、後でもくり返されています。それぞれに続く「美しき」「楽しさよ」の両方をおさえてまとめましょう。

7 「われは草なり」という表現の直後にある言葉に着目しましょう。「伸びんとす(第一連)」「緑なり(第二・第三連)」「生きんとす(第四連)」とあり、これらの言葉はくり返されています。伸びようとし、緑で、生きようとする——そんな、単純で生命力にあふれた草の生き方を、作者はえがいています。そして詩をしめくくる「草のいのちを／生きんとす」には、自分も草のように生きたいという作者の強い思いが

しめされています。イは、草は「自由気ままに」生きているとはえがかれていないので合いません。

2 Aさんの意見は、自分の体質を根拠にしている説得力に欠けます。先生や子どももバス

によいやすいとは限りません。一方、Bさん・Cさんの意見は、根拠が一般的で説得力があります。

## 新聞を読む

## 54・55 ページ 基本のワーク

1 ①せいじ ②きょううみ ③しめ

2 ①政治 ②興味 ③示

3 ①加 ②目的

4 ①ア

2 (順序なし) どこで・だれが

3 コラム

5 ①イ ②ア ③ウ

2 (上から順に) イ・ウ・ア

6 ① (右から順に) ②・①

2 全国・神戸 (または兵庫・関西・地方・地域)

### てびき

4 1 「一面」は、新聞の最初のページで、

「新聞の顔」といわれます。

2 ① (when) ② (where) ③ だれ



が(who)、何を(what)、なぜ(why)、  
どのように(how)、を5 W・Hといい、  
ニュース記事には欠かせない要素です。

3 コラムはニュース記事とはちがひ、書き  
手の意見なども記されることがあります。

5 新聞記事は、いちばん重要な事がらを先に  
示し(見出し)、次に出来事のあらまし(リー  
ド文)、それからくわしい内容の説明(本文)  
へとしだいに細かく書かれています。新聞を  
読むときには、まず見出しやリード文から何  
について書かれているのかをとらえ、それか  
ら本文へと読み進め、よりくわしい情報を読  
み取るようにします。

6 1 ①のリード文には、柔道の阿部兄妹と  
同じ日に金メダルを獲得した選手として、  
競泳の大橋悠依や、スケートボードの堀米  
雄斗の名前も挙げられています。②のリー  
ド文にも阿部兄妹以外の選手名が挙げられ  
ていますが、これは過去の大会における  
「兵庫県出身」の金メダリストです。また、  
「神港学園高出身」「夙川高出身」「神戸市  
兵庫区出身」と阿部兄妹の出身について書  
かれているのは、②のリード文です。

2 ①は、全国に向けて発行されている全国  
紙です。全国の読者に向けて書かれている  
ため、阿部兄妹だけでなく、他の金メダリ  
ストについても幅広く取り上げています。  
一方、②は神戸で発行されている新聞で、  
その記事は神戸の読者に向けて書かれてい  
ます。そのため、神戸の読者が身近に感じ

られる内容が取り上げられています。この  
ように、新聞の記事は、対象とする読者に  
合わせて書かれています。

文章に説得力をもたせるには  
漢字の広場② 四年生で習った漢字

56・57ページ 基本のワーク

1 しゅちょう 2 こじん 3 ささ

1 主張 2 個人 3 支

1 卒業 2 週末 3 自然 4 目標 5 節約

6 必死 7 結束 8 不安 9 苦勞 10 希望

11 勇気 12 成功

1 (順序なし) ①・⑤

2 例 犯罪から身を守るために、防犯ブ  
ザーを持ち歩くことが必要だ(というこ  
と)。

3 ウ

4 ①例 こわい思いをすると、体が固まっ  
て声が出ないことが多い。

②例 ランドセルやバッグに付けておけ  
ば、持ち運びもめんどろではない。

てびき

1 田中さんは、文章の最初の段落で主張  
をのべ、最後の段落でもまとめとして同じ  
主張をくり返しています。このような構成  
にすることで主張が強調され、読む人に自  
分の思いを明確に伝えることができます。

2 「わたしは、犯罪から身を守るために、防  
犯ブザーを持ち歩くことが必要だ」と考え  
る。」(①段落)、「いざというとき自分の身  
を守るために、防犯ブザーを常に身に着け  
ておくことが必要だ。」(⑤段落)とありま  
す。答えは、「身を守るために」「防犯ブ  
ザーを持ち歩く(身に着ける)ことが必要  
だ」という内容をおさえてまとめましょう。

3 ②段落には、田中さん自身が防犯ブザー  
に助けられた体験が書かれています。自分自  
身の体験を根拠として示すことで、「防犯ブ  
ザーは必要だ」という主張を支え、説得力を  
もたせています。意見文を書くときには、主  
張だけではなく、根拠を示すことが必要です。  
この根拠が主張を支えるものになっているか  
どうか、説得力のある意見文になるかどう  
かの決め手となります。

4 ③段落では、田中さんは自分の主張とこ  
となる立場で考え、二つの反論を予想して  
挙げています。これらの反論に対する田中  
さんの考えを示しているのが、④段落です。  
①「大声を出せばいい」↓「こわくて声が  
出せない」、②「持ち歩きがめんどろだ」  
↓「ランドセルやバッグに付けておけばめ  
んどろではない」とのべ、「防犯ブザーは  
必要だ」という主張へとつなげています。  
このように、「予想される反論(③段落)」  
と「反論に対する考え(④段落)」を加え  
ることで、文章に、より説得力をもたせる  
ことができます。



たずねびと

漢字の広場③ 四年生で習った漢字

58・59 ページ

基本のワーク

- 1 まよ 2 しょがいち 3 ひと
- 4 べんとうばこ 5 けん 6 まじめ
- 7 てい 8 よ 9 あま 10 ほとけ
- 2 1 迷 2 所在地 3 独 4 検 5 寄 6 余
- 3 1 結果 2 種 3 単位 4 例題 5 給食
- 6 覚
- 4 1 イ 2 ア 3 ア 4 ウ 5 ア 6 イ
- 7 イ 8 ア 9 ウ

☆ 内容をつかもう!!

「楠木アヤ」…原爆・遺族が見つからない  
「楠木綾」……お兄ちゃん・広島

60・61 ページ

練習のワーク①

- 1 明るくて晴れ晴れとした  
ウ
- 2 (順序なし)
- 3 ・ご飯が炭化した弁当箱  
・くにやりとつけてしまったガラスびん  
・八時十五分で止まったうて時計  
・焼けただれた三輪車  
・石段に残る人の形のかげ
- 4 イ
- 5 例 たった一発の爆弾(または原爆)で、こ  
こでたくさんの方が死んでしまったこと。

6

- (1) 例 被爆によって、原爆が落とされた年  
の終わりまでになくなった人たち(の数)。
- (2) 朝礼のときの校庭・七百・二百

てびき

- 2 「ここで本当にたくさんの方が死んだの」  
「信じられないよな。……びつり人がうい  
てたなんて。」とあります。綾もお兄ちゃん  
も、実感がわかないのです。
- 4 資料館には「信じられないことばかり」が  
ならんでいました。原爆の真のおそろしさを  
伝える品々を見て、綾は大きなしよげきを  
受けたのです。
- 5 資料館を見る前の、綾の「ここで本当にた  
くさんの人が死んだの」という問いに対する  
答えが、「本当なんです。あなたは知らな  
かったの。」です。「展示品の持ち主たちは、  
原爆でほとんどみんな死んでしまったこと」  
「原爆のひがいがとても大きくかったこと」  
と。」などでも正答とします。
- 6 (1) 展示の説明板にある「この年の終わり  
までに」という点をわすれないようにしま  
しょう。「一九四五年」「原爆投下の年」な  
ども正答です。
- (2) 小学校の全校児童数は、綾にも想像しや  
すい人数です。その数を手がかりに想像し  
てみると、お兄ちゃんは助言しています。

62・63 ページ

練習のワーク②

- 1 身元・名前
- 2 例 遺族(または家族)
- 3 (1) イ
- (2) ア
- 4 例 (とても) 少ない  
おばあさんの顔がぱつとかがやいた。
- 5 (1) 例 おばあさんをがっかりさせてしまっ  
たと思い、こまる気持ち。
- (2) 例 綾がアヤに会いに来てくれたことを、  
うれしく思う気持ち。
- 6

てびき

- 2 「せめて名前の分かつとる人らは、いつか  
だれかがむかえに来てくれはせんかと、市も  
わたしらもずつとさがしとります。」とあり、  
遺族をさがしていることが分かります。
- 3 (1) あとかたもなく焼けてしまった人や川  
に流されていつてしまった人などはお骨も  
なく、供養塔に入れられることもありませ  
ん。その人の存在がすっかり消えてしまい、  
身元不明者の数としてすら残らないのです。  
このような人は、「数でさえない人々」(教  
科書126ページ13行)と表現されています。
- (2) 「おばあさんは切なそうになげいた」か  
ら、おばあさんがつらい気持ちでいること  
が読み取れます。
- 4 「おらんことはないが」は、「いるにはいる  
が、とても少ない」ということを表します。
- 6 (1) 「わたしはこまってお兄ちゃんを見た



——おばあさんをつかりさせてしまったにちがいないと思ったのだ。」の部分をとめましょう。

(2) (1)は綾の思いちがいでした。この後おばあさんは「よかったねえ」とアヤに語りかけています。たとえ遺族ではなくても、アヤのことを気かけ、会いに来てくれた人がいたことに感動して、おばあさんは言葉をつまらせたのです。

## 64・65 ページ まとめのテスト

1 例 アヤ (ちゃん)・

例 夢や希望 (または夢やら希望やら)

2 ウ (1) イ

ア

(2) (順序なし)

・その名前に、祈念館でめぐり合った子どもたちの顔が、次から次へと重なった。

・そして、夢で見失った名前にも、いくつもいくつものおもかけが重なって、わたしの心にうかび上がってきた。

5 ④ ウ ⑤ イ ⑥ ア

例 (わたしたちが) ずっとわすれないでいる

## てびき

2 綾は川や夕日の美しさに見とれていたわけではありません。「ただの」きれいな川」は、

広島で出会った物や人によって、もつと深い意味をもつものへと変わりました。お兄ちゃん、綾が今日の出来事について静かに思いをはせていることを察し、自分も同じ気持ちでいたので、綾をせかさなかったのです。

3 2で見たように、綾は広島のを流れる川を見て、かつてこの町で起きたおそろしい出来事や住んでいた人々に思いをめぐらすようになったのです。

4

(1) 「アヤちゃんのことを、ずっとわすれ

ておつてね」とアヤのためにみだぐおばあさんとの出会いによって、綾は「楠木アヤちゃん」が確かにこの世にいて、あの日までここで泣いたり笑ったりしていた」と感じられるようになりました。「楠木アヤ」の文字を指でなぞると「その名前に、祈念館でめぐり合った子どもたちの顔が、次から次へと重なった」のは、顔をもつ実在した人物として「アヤ」を受け止められるようになったからです。

(2) 「夢で見失った名前」とは、広島に来る

前に夢で見た、ポスターをはなれてたちまち消えてしまった名前のことです(教科書116ページ7行)。ポスターに書かれたたくさんの名前は、綾にとってはただの文字、ただの名前でしかありませんでした。しかし今は、この世に生きていた人物の名前として、そのおもかけを感じています。八百個の名前を、八百人の人としてとらえられるようになったのです。

5 原爆でなくなった人々の記録を残そうとしても、名前すら分らない人々や、遺体すらなくて死者数にさえ数えられない人々がたくさんいるのです。

6 「だけど、あのおばあさんが……」で始まる段落に書かれています。「アヤ」のように原爆でなくなった人のことや、原爆がどれほどおそろしいものであるかを知った綾は、それを「ずっとわすれないでいたら、世界中のだれも、二度と同じようなめにあわないですむのかもしれない」と考えています。

## 方言と共通語

### 季節の言葉 3 秋の夕

66・67 ページ

## 基本のワーク

1 ① か ② こうか

2 ① 貸 ② 効果

3 ① 共通語 ② 方言

4 ① イ ② ウ ③ ア

5 ① イ ② ウ

6 ① ア ② ウ

7 ① ①の時間帯…鳥・雁

② ②の時間帯…風・虫

8 ① ①の時間帯…鳥・雁

② ②の時間帯…風・虫

9 ① ①の時間帯…鳥・雁

② ②の時間帯…風・虫

10 ① ①の時間帯…鳥・雁

② ②の時間帯…風・虫

11 ① ①の時間帯…鳥・雁

② ②の時間帯…風・虫

てびき

4 秋は月が最もきれいに見える季節で、俳句などでは「月」といえば、ふつう秋の月を指します。

①③はどれも秋の季語です。「弓張月」は弓のように半円の形をした月、「望月」は十五夜の満月を指します。

6 1 「夕暮れ」の時間を、さらに二つの時間帯に分けて、それぞれの時間帯でよいものを挙げています。

2 ②は「音」と「音」のちがいに注意しましょう。「音」は広く物音を表しますが、「音」は鳥や虫の鳴き声を表します。

7 1 「星月夜」は、月が出ていない秋の夜の星空を表します。月明かりがない分、より多くの星がかがやいて見えます。ア「満月の次の日」の夜は「十六夜」です。

2 「高さ」と「大きさ」は、「広大さ」「果てしない広がり」などでも正答とします。

1 狸が戸を叩く音がよまれています。一方、秋の風が戸を鳴らす音のたとえととらえることもできます。そうするとまたちがった情景がうかんできます。

2 「秋を惜しむ」という気持ちは、秋がすぎ去ってしまうことが残念でさびしいという思いです。

よりよい学校生活のために  
意見が対立したときには

68・69 ページ 基本のワーク

1 ① しょうけん ② たも ③ ひょうか

④ さんせい

2 ① 条件 ② 保 ③ 評価 ④ 賛成

① イ ② ウ ③ ア

④ イ ② エ ③ ア

5 ① エ ② ア ③ ウ ④ イ ⑤ ウ ⑥ ア

2 ア

てびき

4 ① Aさんは「自分はよくグラウンドでけがをする」という事実、Cさんは「けがをする場所は、グラウンド以外にもある」という事実をもとに、それぞれの意見を言っています。

② Bさんは、Aさんの意見に賛成の考えを示したうえで、そのやり方について質問しています。

③ Dさんは、「取り組みやすいこと」かどうかをもとに考える、という条件を提案しています。Aさん・Bさん・Cさんの発言は「考えを広げる」ためのものです。Dさんは「考えをまとめる」ための発言をしています。

5 2 話し合いをするときには、「人」と「意見」を区別することが大切です。

浦島太郎 「御伽草子」より

70・71 ページ 基本のワーク

1 ① つま

② 妻

3 ① ウ

2 ① 開けて見よう

② 亀が与へしかたみの箱

3 亀・開けなざるな・見てしまった

4 ① 例 亀が浦島の年の数を箱の中に入れた

5 おじいさん

6 鶴

てびき

3 1 現代語訳に、「(ふるさとで長い時間がすぎてしまった) 今となってはどうしようもない」とあります。ふるさとが変わり果て、知る人もなくなったことにショックを受け、もう今さらどうしようもないと、やぶれかぶれな気持ちになったのだと思われます。

2 ① 「見ばや」は、「見てみたい。見てみよう」という意味です。

② 古典の仮名づかいに注意して書きぬきましょう。

4 「もともと、この浦島の年の数を……箱の中にたたんで入れてあった」とあるので、箱の中から出てきたものⅡ「紫色の雲」は、「浦島の年の数」だったと分かります。



6 言い伝えられてきた「浦島太郎」の話には、いくつかの展開があります。この「浦島太郎」では、箱を開けた後、浦島太郎が鶴になっていきます。また、竜宮城で浦島太郎と結婚し、浦島太郎に箱をわたした女性が、実は浦島太郎が助けた亀となっています。

## 和語・漢語・外来語

### 72・73 ページ 基本のワーク

- 1 ①こ ②こんざつ ③なまもの ④きんし  
⑤しょうじょ ⑥かのうせい
- 2 ①混雑 ②省略 ③採集 ④可能性  
①日本 ②「訓」 ③中国 ④漢字
- 3 ⑤外来語 ⑥片仮名  
①ア ②ウ ③イ ④イ ⑤ア ⑥ウ
- 4 ①和語…速さ 漢語…速度  
②和語…明かり 漢語…照明  
③和語…昼飯 漢語…昼食
- 5 ①読み…いろがみ 意味…イ  
②読み…シキシ 意味…エ  
③読み…セイブツ 意味…ア  
④読み…なまもの 意味…ウ  
イ
- 6 ①読み…いろがみ 意味…イ  
②読み…シキシ 意味…エ  
③読み…セイブツ 意味…ア  
④読み…なまもの 意味…ウ  
イ
- 7 ①読み…いろがみ 意味…イ  
②読み…シキシ 意味…エ  
③読み…セイブツ 意味…ア  
④読み…なまもの 意味…ウ  
イ

#### てびき

- 4 「宿屋」は漢字で書き表されていますが、

「訓」で読むので和語です。

5 似たような意味を表す言葉であっても、外来語、和語、漢語で読んだときの印象がちがったり少し意味がちがったりする場合もあるので、場面によって使い分けすることが大切です。

7 漢語は、小さな子どもには意味が分かりにくい場合があります。また、漢語は同音の言葉が多いので、耳で聞き取るときには分かりにくいことがあります。一方、改まった場面では漢語のほうがふさわしい場合があります。場面によって使い分けが必要です。

## 固有種が教えてくれること 自然環境を守るために ほか

### 74・75 ページ 基本のワーク

- 1 ①かてい ②ゆた ③ぶんぶ ④しんりん  
⑤げんしょう ⑥ほご ⑦ふたた  
⑧ぞうか ⑨しょうにん ⑩せきにん  
⑪とうけいしりょう ⑫にさんかたんそ  
⑬せつてい
- 2 ①豊 ②減少 ③保護 ④増加 ⑤証人  
⑥責任  
ア
- 3 ①イ ②ウ ③イ ④イ ⑤ア ⑥ウ  
⑦ア ⑧ウ
- 4 ①イ ②ウ ③イ ④イ ⑤ア ⑥ウ  
⑦ア ⑧ウ

#### 内容をもう一度!

多い・減ってきている・絶滅させない

### 76・77 ページ 練習のワーク①

- 1 南西諸島・本土・北海道  
(右から順に) 2 ↓ 3 ↓ → (4)
- 2 例 アマミノクロウサギより、もっと進化したウサギが栄えたから。
- 3 例 アマミノクロウサギより、もっと進化したウサギが栄えたから。
- 4 他の地域と分断される
- 5 気候的・地形的
- 6 例 豊かで多様な環境が保全されること。

#### てびき

2 第二段落をていねいに読みましょう。「アマミノクロウサギは、そのずっと以前に大陸からわたってきた」は、「アマミノクロウサギは、南西諸島が大陸から切りはなされて島になるずっと以前に大陸からわたってきた」という意味です。また、「大陸では、その後もっと進化したウサギが栄えた」は、「大陸では、南西諸島が大陸から切りはなされて島になった後もっと進化したウサギが栄えた」という意味です。

3 12行目に「大陸では、その後もっと進化したウサギが栄えたためにほろび」とあります。筆者は、第二段落でアマミノクロウサギを具体例に挙げて説明した後、「このように、他の地域と分断されることによって、固有種は生まれるのです。」とまとめています。

6 文章の最後に、「固有種が生き続けていくためには、この豊かな環境が保全される必要があるのです。」とあります。「この豊かな環境」とは、すぐ前に書かれていた、気候的に

も地形的にも変化に富んだ、日本の「豊かで多様な環境」を指します。「豊かな環境が保全されること。」でも正答としますが、「多様な」という説明も加えたほうが、よりよい答えとなります。

## 78・79 ページ 練習のワーク②

1 温暖・二酸化炭素の排出量・節電

2 ②資料① ③資料②

3 (1) ウ

4 (2) (日本の)産業部門の二酸化炭素排出量。

5 (3) イ

6 A 例三千万トン増えています

B 六十六

5 例エアコンの設定温度を変えたり、こまめに電気を消したりするなど、家庭での節電をすること。

6 イ

### てびき

2 資料①のグラフから、「家庭部門」の「二酸化炭素排出量」は減っていないことが分かります。また、資料②から、家庭から排出される二酸化炭素量のエネルギーでいけば多いのは、「電気」であることが分かります。

3 (1) グラフを用いて説明するときは、まず何を表すグラフなのかを示します。

(3) 「一九九〇年と二〇一九年を比べると……」と、具体的にどの数値に注目して読

み取ればよいのかを示し、読み手が理解しやすくしています。

4 Aは、前に「産業部門が一億トン以上減っているのに対し」とあるので、これと比べて、家庭部門は何トン増えているのか、減っているのかをまとめます。

5 「……が重要だと考えます。」「……始めましょう。」という文末で、自分の考えをのべています。これらの文をまとめます。

## 80・81 ページ まどろみテスト

1 森林のばつさい・外来種の侵入（「森林のばつさい」「外来種の侵入」は順序なし）・消失

2 例（自然の作用ではなく、）人間の活動によって、固有種が減ってきているという問題。

3 ・（固有種などを）例天然記念物に指定した

・（絶滅のおそれのある動植物を）

例「絶滅危惧種」などランク分けした

ア

イ

天然林

資料A……〇〇県の小学生（千二百人）

資料B……〇〇市立図書館に来た小学生

（百人）

資料A……アニメ雑誌

資料B……ファンタジー

3 資料A

### てびき

2 「この」が指し示す内容を前の部分からさがします。第一段落でどんな「問題」が取り上げられていたかを確認しましょう。「人間の活動が活発になり、……動物たちのすむ場所が消失するという問題が起り、すでに絶滅したほ乳類もいます」とあり、最後に「人間の活動によって、固有種が減ってきているのです」とまとめられています。このまとめの部分を用いて答えましょう。

4 アは、第二段落の「一九八〇年ごろには、全国におよそ十萬頭にまで増えました」に合っています。また、第三段落に「特別天然記念物にもかかわらず、地域によっては害獣としてほくされるようになった」とあり、その数は、資料7から、年数百頭、千数百頭と分かります。イは、特別天然記念物の指定は取り消されていないので×。ウは絶滅しかけた原因がちがいます。原因は、人間による「らんかく」です。さらに、保護の内容も「えさをあたえること」とは書かれていません。

5 資料6で「天然林が一五〇〇万ヘクタールにまで減少」した年、資料7で「ほくされたニホンカモシカの数が増えている」年を読み取ります。どちらも一九八〇年代であることが分かります。

6 ニホンカモシカがほくされるように



なったのは、「生息場所である天然林が減少」したために、えさを求めて植林地に現れ、幼木の芽を食べたからです。「天然林」を保護すれば、ニホンカモシカは安心してそこにすみ、人間にきらわれることもありません。この事例から分かるように、固有種を保護するときには、その固有種の生息環境もあわせて保護することが重要なのです。

2 資料Aの調査対象が〇〇県の小学生千二百人と多く、地域も広くて学年や男女にかたよがないのに対し、資料Bの調査対象は百人と少なく、しかも〇〇市立図書館にきた人に限られます。そのため、資料Bは、「ある特定の地域に住む、限られた人数の図書館にきた小学生」が好きな本となります。「一般的な小学生」の好みに近いと考えられるのは、資料Aです。

## カンジー博士の暗号解説

82・83 ページ

### 基本のワーク

- 1 はかせ 2 きこうぶん 3 ぶんかぎい 4 そしき 5 けんちく 6 きゅうどう 7 きそく 8 ちよきん 9 しんがた 10 けつえき 11 きほん 12 じこ
- 1 教授 2 山脈 3 規則 4 額
- 1 病 2 秒

- 3 1 船 2 先 3 航 4 海 5 清 6 公 7 開 8 成 9 園 10 童 11 改 12 行 13 動 14 遠 15 高 16 各 17 地 18 神 19 信 20 覚 21 確 22 知 23 置

## 古典の世界 (二) 漢字の広場 ④ 四年生で習った漢字

84・85 ページ

### 基本のワーク

- 1 他人に対してしてはならない 2 過ちをおかしてそれを改めない 3 朝になったのも気づかなかった
- 1 宮城 2 茨城 3 栃木 4 群馬 5 埼玉 6 神奈川 7 新潟 8 富山 9 福井

- 10 山梨 11 岐阜 12 静岡 13 愛知 14 滋賀 15 京都府 16 大阪府 17 兵庫 18 奈良 19 岡山 20 徳島 21 香川 22 愛媛 23 福岡 24 佐賀 25 長崎 26 熊本 27 宮崎 28 鹿児島 29 沖縄

## てびき

1 「自分がされたくないことを、人にしてはいけない。」「過ちをおかしたら、それを改めることが大事だ。」という意味のことを、孔子は説いているのです。

2 「春暁」は、「春の夜明け」という意味です。あたたかくて気持ちのよい、春の朝の様子を歌っています。「雨や風の音がしていた」昨夜の悪天候とはうって変わって、「あちこちで鳥の鳴く声が聞こえてくる」おだやかな朝です。

## やなせたかし——アンパンマンの勇気

86・87 ページ

### 基本のワーク

- 1 ほんみよう 2 ふうふ 3 すく 4 ほんかくてき 5 しよく 6 いどう 7 はか 8 せいぎ 9 ころ 10 まず 11 しゅっぱんしゃ 12 のち
- 1 夫婦 2 本格的 3 墓 4 正義 5 貧 6 出版社

- ③ ①ア ②イ ③ア ④イ ⑤ウ ⑥ウ  
⑦イ ⑧イ ⑨ウ

☆ 内容をつかもう！

- ①ウ ②エ ③ア ④イ

88・89 ページ

練習のワーク

- 1 (1) 戦死

- (2) ア

- 2 りくつ・正しい・正義

- 3 (1) (ㄱ) 本当の正義とは、おなががすいて  
いる人に、食べ物分けてあげること  
だ。(ㄷ)

- (2) 分け合って・えがお

- (3) ①殺す ②生かす

- 4 例1 戦争で苦しい思いをしている人たちが、  
うえて死んでしまう子どもたちを助けること。

- 例2 人を生かし、命をおうえんすること。

てびき

- 1 (2) 後にある「いったい君は……ぼくは何

をすればいいのだろう。」という言葉から

「たかし」の考えを読み取ります。

- 3 (1)・(2) おさない兄弟がおにぎりを分け合

う様子を見て、「たかし」は「はっと」し

て、「本当の正義とは……ことだ。」と言っ

ています。この兄弟の様子を見たことが

きっかけで、正義とは何かという問いに答

えを見つけたのです。

- (3) 「戦争は、……気がついたのだ。」(31行  
〜33行)の一文で、「たかし」が気づいた

ことがまとめられています。

- 4 最後の「たかし」の言葉をまとめます。

「その人たちを助けるのは、どんなときも正  
しいこと」と言っており、「その人たち」が  
どんな人たちかはその前で説明されています。  
また、「たかし」の言葉の前の一文「戦争は、  
人を……気がついたのだ。」を使って表すこ  
ともできます。

90・91 ページ

まとめのテスト

- 1 (1) ウ

- (2) 正義・命

- 2 正義・自分も傷つく・本当の勇氣

- (右から順に) 3 ↓ 1 ↓ 2 ↓ (4)

- 4 寒い中で水

大勢いた。(または)大勢いた

- 5 (1) 例1 体は手術のあとだから、体力も

落ちていた(状態)。

- 例2 何度も病気で入院し、十回以上手

術をした(状態)。

- (2) イ

- 6 例 自分が傷ついても、傷ついた人たちを助

けようとするところ。

てびき

- 1 (1) アは「顔がぬれただけで力をなく」す、

イは「カッコいい武器も持っていない」とい

う内容に合わないので不適切。ヒーローに

は、強い力もち、その力で力をたおし

て人を助けるものが多いですが、アンパン  
マンは食べ物を分けて人を助けるヒーロー  
でした。

- 2 すぐ後の部分から、「たかし」が、人を助

けようとしたら自分も傷つくが、それでもだ  
れかを助けたいと思うのが本当の勇氣だと考  
えていることが分かります。顔を食べさせて  
人を助けるアンパンマンは、自分も傷つくか  
くごで人を助けるヒーローを表現したもの  
だったのです。

- 4 被災した人たちは、傷つき苦しみながらも  
だれかを助けようとしていました。そのすが  
たが「たかし」にはヒーローのように見えた  
のです。

- 5 (1) 「手術」を何度もしたことが書いてい  
れば正答です。

- 6 「たかし」は、手術をくり返して、無  
理をすればさらに体が弱ってしまう状態だっ  
たのに、震災で苦しむ人々を助けようとし  
ました。自分が傷つくかくごで、だれかを助  
けようとしていたのです。

あなたは、どう考える

季節の言葉 4 冬の朝

92・93 ページ

基本のワーク

- ①の ②かり

- ①述 ②仮

- ③題材 ②必要 ③参考 ④交通省



④ ①主張 ②根拠

⑤ ③反論に対する考え ④主張

⑥ ① 早朝

⑦ ② 寒さがやわらいでくると

⑧ ③ ア○ イ○ ウ○ エ×

⑨ ① 夕日・海・風〔またはこがらし〕

⑩ ② ウ

⑪ ③ イ

### てびき

④ 意見文では、「初め」と「終わり」に自分の主張を述べる構成がよく使われます。「中」には、その意見に説得力をもたせるための内容を書きましょう。

⑤ ③ エは「火桶の火も白き灰がちになりてわろし」に着目。「わろし」は「よくない」という意味です。

⑥ ②・③ 「風花」は、風に乗ってまい散る雪を、花に見立てた言葉です。作者は、「華やかに」風花を散らしているのはどの雲だろうかと、空を見上げているのです。

## 好きな詩のよさを伝えよう 言葉でスケッチ

94・95 ページ

### 基本のワーク

① ① するめ

② ② うみ〔または海〕

③ ① ヨット

④ ② 見た・思った

③ ゆう陽〔または夕日・ゆうぐれ〕

④ なみだ・海

⑤ イ

⑥ ① むくむく(と)

⑦ ② ア

### てびき

① イカは、ほされて「やじるし」のようなるめになりました。そのすがたが、まるでイカがかつてすんでいた「うみ」の方向をさがしているようだ、作者は感じたのです。

② 作者は、蟻が蝶の羽を立てて土の上を運んでいく情景を見て、ヨットがほを立てて海の上を進んでいくようだったのです。

③ 次の行に「ゆう陽がこぼれて」とあります。「なみだ」という小さなものと、「海」という大きなものを対比させています。一つぶのなみだの中にも、海と同じほど大きな世界が広がっていることを思わせる詩です。

⑤ 人間は風のすがたを見ることはできませんが、砂があるところでは、砂の動きや砂に残ったものなどが風の様子を教えてくれます。そのように、目に見えないものでも何かを通して伝わるものがあるという思いが感じられる詩です。

⑥ 情景をえがくときは、たとえや、音のひびきで様子を表す言葉を使ったり、色や音、においなどを想像して言葉を考えたりして、表現を工夫しましょう。

## 熟語の読み方

漢字の広場⑤ 四年生で習った漢字

96・97 ページ

### 基本のワーク

① ① しいく ② わたげ ③ いま

② ④ えいきゅう ⑤ しみず ⑥ かわら

③ ⑦ しょうどく ⑧ やおや ⑨ えいぎょう

④ ⑩ くだもの ⑪ まいご ⑫ めがね

⑤ ⑬ ぼうはん ⑭ こうし ⑮ せいりよくてき

⑥ ⑯ へた

⑦ ① 飼育 ② 綿毛 ③ 消毒 ④ 営業 ⑤ 防犯

⑧ ⑥ 講師

⑨ ① 目的地 ② 牧場 ③ 両側 ④ 松

⑩ ⑤ 博物館 ⑥ 徒歩

⑪ ① トクベツ ② オウさま ③ やね

⑫ ④ あいず

⑬ ① イ ② ウ ③ ウ ④ ア ⑤ エ ⑥ エ

⑭ ① てつだ ② まじめ ③ たなばた

⑮ ④ かわら ⑤ しみず ⑥ はかせ

⑯ ① イ ② ア ③ イ ④ ア ⑤ ア

### てびき

④ ③の「屋」の音読みは「オク」。「や」は訓読みです。④の「合」の音読みは「ゴウ・ガツ」。「あい」は訓読みです。

⑤ ③の「目」の音読みは「モク」。「め」は訓読みです。④の「絵」は、「エ」「カイ」という二つの音読みをもつ漢字です。「本」の音読みは「ホン」。訓読みは「もと」です。

## 想像力のスイッチを入れよう

98・99 ページ

### 基本のワーク

- 1 しゅうかん 2 しゅうい 3 ふりえき  
4 さいがい
- 2 ①習慣 ②周囲 ③不利益 ④災害
- 3 ①エ ②ア ③ウ
- 4 ①エ ②イ ③ア ④ウ
- 5 ①イ ②ア ③イ ④ア ⑤ウ ⑥ア  
⑦ウ ⑧ウ ⑨イ

☆内容をつかもう！  
(右から順に) イ・ア・ウ

100・101 ページ

### 練習のワーク

- 1 結論・まだ分からないよね(○)  
かくしている  
ア・ウ
- 2 (順序なし)  
・報道陣をさけるためか  
・にげるように  
印象
- 3
- 4
- 5
- 6 例その仕事は、相手側の都合で、急にキャンセルせざるをえなかったのかもしれない、  
といった、他の見方もありうるから。  
想像(力)・他の見方
- 7

#### てびき

- 1 「まず大切なのは、結論を急がないことだ」とあり、「まずは一度落ち着いて、『まだ分からないよね。』と考える習慣をつけよう。」と述べています。情報に接したら、まずは落ち着き、それから「メディアが伝えた情報について、冷静に見直す」という作業にかります。その方法について、この後に具体的な説明が続いています。
- 3 イは、想像力を働かせずに、「報道陣をさけるためか」というレポーターが印象を述べた言葉を、そのまま受け取ってしまっています。
- 4 直後に「Aさんは／裏口から／出ていきました」という言葉だけが確かな事実だと述べられているので、それ以外は「印象が混じっている可能性のある表現」です。レポーターは、Aさんがかんとくになるのではないかという思いこみをもっているため、このような表現を付け加えてしまうのです。
- 6 Aさんは、かんとく就任が決まったために外国での仕事をキャンセルしたのではなく、別の理由でキャンセルしたのかもしれない。たとえ事実であっても、それがAさんのかんとく就任と結び付くとは限らないのです。
- 7 ①のレポートの事例では、『事実かな、印象かな。』と考える大切さを述べています。④の新聞記事の事例では、『他の見方もないかな。』と考える大切さを述べています。このどちらにも欠かせないのは、「想像力」を働かせることです。

102・103 ページ

### まとめのテスト

- 1 (1) 暗がり・(2) 何がかくれているかな(○)  
(2) (3) 他の人がかんとくになる可能性はないのか(○)
- 2 (3) ①  
思いこみ・推測
- 3 例1 「想像力のスイッチ」を入れる努力  
例2 想像力を働かせて、あやまった思いこみをしないようにすること
- 4 イ
- 5 ウ

#### てびき

- 1 これより前の文章では、メディアがスポットライトを当てたものを、どう受け取ればよいのかについて説明していました。ここからは、スポットライトが当たっていない部分にも想像力を働かせることが必要だということが述べられています。
- 2・3 「Aさんの事例のように」思いこみや推測によってだれかを苦しめたり、だれかが不利益を受けたりすることは、実際に起こりうるのだ」とあります。このようなことを防ぐために、情報を受け取る側にも努力が必要であり、「あなたの努力は、『想像力のスイッチ』を入れることだ。」と最後の段落で述べられています。「スイッチ」は、自分で意識して入れることができます。筆者は、情報を正しく受け取るには、意識的に想像力を働かせることが必要だと主張しているのです。『想



像力のスイッチ』を入れる」というたとえを使わずに書いても、同じ内容であれば正答です。

- 4 ここでは、「あたえられた小さいまどから小さい景色をながめる」「想像力でかべを破る」「大きな景色をながめる」というたとえを用いて、それまでに述べてきた意見をまとめています。筆者の意見は、メディアが伝えた特定の部分をそのまま受け取るのではなく、『何がかくれているかな。』などと想像力を働かせて見るはんいを広げ、物事の全体像を正しくとらえることが大切だ、というものです。これに合うのはイです。
- 5 筆者は、メディアを批判しているわけではありません。

## 複合語

### 言葉を使い分けよう

## 104・105 ページ 基本のフック

- 1 うおいちば 2 まさゆめ 3 あゆ  
4 しょうひせい 5 ほうせいど  
6 じんこうえいせい 7 のうこうちたい  
8 そんがいほけん 9 ゆきがっせん  
10 こな 11 へいきん 12 ゆにゆう  
13 しょうねんだん 14 じむ 15 ふなたび  
16 つのぶえ
- 2 1 枝分 2 人工衛星 3 農耕地帯 4 粉  
5 輸入 6 少年団

- 3 1 ア 2 カ 3 イ 4 ア 5 ウ 6 エ  
7 オ 8 イ

- 4 1 ほんばこ 2 ふなたび 3 しらなみ  
4 あまぐも 5 はなばたけ 6 あおじろい

- 5 1 持参して↓例持って

- 2 ウ  
3 ア× イ○ ウ○

## てびき

- 3 それぞれ、次のような組み合わせでできています。

- 1 「足（和語）」＋「ふむ（和語）」  
2 「ピアノ（外来語）」＋「教室（漢語）」  
3 「火山（漢語）」＋「岩（漢語）」  
4 「暑い（和語）」＋「苦しい（和語）」  
5 「キー（外来語）」＋「ホルダー（外来語）」  
6 「休む（和語）」＋「時間（漢語）」  
7 「紙（和語）」＋「コップ（外来語）」  
8 「新（漢語）」＋「製品（漢語）」
- 4 複合語になるときに、元の言葉と発音が変わることがあります。
- 1 「ほん・ばこ」、2 「ふな・たび」、3 「しら・なみ」、4 「あま・ぐも」、5 「はな・ばたけ」、6 「あお（い）・じろい」のように、二つの言葉のつながり目の音が変化します。
- 5 3 保護者に伝えるときは、「筆記用具をご持参のうえ、体育館にお集まりください。」などとなります。ア「外来語」「漢語」などは適切に使いますが、無理に取り入れる必要はありません。

## もう一つの物語

### 「子ども未来科」で何をする

## 106・107 ページ 基本のフック

- 1 おじいさん

〔または竹取の翁・さぬきのみやつこ〕

- 2 月

- 1 ウ 2 ア 3 イ  
1 エ 2 イ 3 ウ 4 ア  
1 ウ 2 イ 3 ア

- 1 〔例〕「子ども未来科」で英会話合宿を行い、英語を学ぶという提案。

- 2 初め…ウ 中…ア 終わり…イ

- 3 ①ウ ②ア

- 4 1 イ 2 ア 3 イ

## てびき

- 2 物語のどの部分を変えるかによって、物語全体がどのように変わるかもとなります。
- 4 3 一般的な事実を知りたいときには、本や新聞を読むほか、インターネットで検索することも役に立ちます。
- 5 1・2 「初め」と「終わり」の部分で、「わたしは、……学びたいです。」「ですから、……学ぶことを提案します。」「と、自分の提案を述べています。」「中」の前半は英語を学びたい理由、後半は「英会話合宿」が必要な理由を述べています。

108・109 ページ

基本のワーク

- ① ① かい ② も ③ ひき ④ とうりよう  
⑤ しどう ⑥ どうどう
- ② ① 快 ② 燃 ③ 率 ④ 頭領 ⑤ 指導  
⑥ 堂々〔または堂堂〕
- ③ ① 大臣 ② 関心 ③ 浴 ④ 投票 ⑤ 昨夜  
⑥ 孫
- ④ ① ア ② イ ③ ウ ④ ウ  
⑤ ウ ⑥ ア ⑦ ア ⑧ イ ⑨ ア
- ⑤ ⑦ イ ⑧ イ ⑨ ア

☆ 内容をつまもう！

(右から順に) 3 ↓ 2 ↓ 4 ↓ 1

110・111 ページ

練習のワーク ①

- ① タニシ・(ヤ)かんに) 食べた形跡  
② 思わぬごちそう  
③ イ  
④ 例 小屋の中でえさ場に来るガンの群れを  
待って、じゅうでうつため。  
⑤ 残雪  
⑥ りようじゅうをぐつとにぎりしめた大造じ  
いさんは、ほおがびりびりするほど引きしま  
るのでした。  
⑦ (小さな) 小屋・(二) 様子の変わった所には、  
近づかぬがよい(ぞ。い)・本能  
⑧ ア

9 イ

てびき

- ③ 「会心のえみ」とは、「自分の思いどおりになつたときに出る笑い顔」のことです。大造じいさんはガンをとらえるための作戦がうまくいって、満足しているのです。
- ④ 後のほうに「もう少しでたまのどききょりに入ってくる」とあるように、小屋からガンをじゅうでうとうと考えたのです。「小屋でガンを待つ」「小屋からガンをうつ」という二点をおさえていれば正答とします。
- ⑥ 「りようじゅうをぐつとにぎりしめた」「ほおがびりびりするほど引きしまる」は、緊張したときの様子を表しています。「あかつきの光が、小屋の中にすがしく流れこんできました。」は、今回はうまくいきそうだという、大造じいさんの明るい気持ちを想像させる表現なので、当てはまりません。
- ⑧ 「またしても、残雪のためにしてやられてしま」ったので、大造じいさんはくやしうなうなってしまったのです。
- ⑨ 残雪は、「油断なく」やって来て、大造じいさんの小屋を見つけると、「様子の変わった所には、近づかぬがよいぞ。」と感じ、「広いぬま地のずつと西側のはしに着陸」するよな性格です。

112・113 ページ

練習のワーク ②

- ① イ  
いつ：二年前  
どのようにして：つりばりの計略で(生けどった)。
- ② 残雪の仲間〔または残雪の一群〕・おとり  
(ガンは) いちばん最初に飛び立ったもの  
の後について飛ぶ(、ということ)
- ③ たま・三倍・(ガンの) え(さ)  
(順序なし)
- ④ 例 飼いならしたガンを(例の) えさ場に放った。  
・例 小屋の中にもぐりこんで、ガンの群れを待った。
- ⑤ うまくいく〔または成功する〕  
ウ
- ⑥ ⑦
- ⑧

てびき

- ① 少し後に、「ガンがどんぶりからえを食べている」とあるので、飼っているガンのえさであることが分かります。
- ③ 少し後に「ひとつ、これをおとりに使って、残雪の仲間をとらえてやろうと考えていた」とあります。「これ」とは飼っているガンを指します。
- ④ ガンの習性を利用して、おとりのガンを口笛でよび寄せ、その後に群れがついてくるように仕向けようと考えたのです。
- ⑥ 直前の文に、準備の内容が二つ書かれています。



7 前の日の場面に、『うまくいくぞ。』／大造じいさんは、青くすんだ空を見上げながら、にっこりとしました。」とあります。「東の空が真っ赤に燃えて」「美しい朝の空」といった表現からも、この思いが続いていることが分かります。

8 残雪との勝負を目前にして、大造じいさんは高ぶる気持ちを落ち着かせ、自分に気合いを入れているのです。

## 114・115 ページ 練習のフック③

- 1 (ぐっと) じゅうをかたに当て・じゅうを下ろして
- 2 (1) ウ  
(2) 例 大きな羽で、力いっぱい相手をなぐりつけた。
- 3 さっと体勢を整えると、残雪のむな元に飛びこみました。
- 4 ア  
第一のとき…ハヤブサ  
第二のとき…大造じいさん〔または人間〕  
(順序なし)
- 6 (残りの力をふりしぼって、) ぐっと長い首を持ち上げました。( )  
・じいさんを正面からにらみつけました。( )
- 7 イ

1 てびき  
残雪が仲間を救いに来たのだと分かって、

大造じいさんは、うつのをやめてしまったのです。

2 直前に「救わねばならぬ仲間のすがたがあるだけでした」とあります。頭領である残雪は、仲間を救うことだけを考え、全力でハヤブサと戦っているのです。

4 羽が何度も空に飛び散る様子から、二羽が空中ではげしくぶつかっていることが分かります。

5 第一のときは仲間のガンをおそってきたハヤブサで、第二のときは近づいてくる大造じいさんです。

7 残雪は、仲間のために命がけて戦い、きずを負っても最期まで頭領としてのいげんを保とうとしています。大造じいさんは、そんな残雪を目の前にして、ただの鳥ではなく、もつとというものに對しているような気持ちになっっているのです。この場面は、残雪に對する大造じいさんの気持ちが大きく変化する、物語の「山場」です。

## 116・117 ページ まどろみテスト

- 1 ハヤブサ…例 よろめきながら飛び去っていく  
残雪…例 おねの辺りをくれないにそめて、ぐったりとしている
- 2 例 いかにも頭領らしい、堂々たる態度だと思っただ。
- 3 例 残雪の、最期の時まで頭領としてのいげんをきざづけまいと努力しているところ。

- 4 春・残雪〔またはガン〕・大造じいさん  
えらぶつ
- 6 イ
- 7 ア

## てびき

- 1 ハヤブサは「よろめき」、残雪はおねから血を流して「ぐったりと」しています。この様子から、二羽の戦いのはげしさが分かります。
- 3 すぐ前の部分で、残雪が最期の時を感じて、頭領らしくふるまう様子がえがかれています。大造じいさんは、そんな残雪のすがたに「強く心を打たれて」いるのです。「残雪の、ただの鳥ではないところ。」という答えでは、どんなところが「ただの鳥」とはちがうのが不明なので、不十分です。
- 4 スモモの花が清らかに散る風景と、残雪を送り出す大造じいさんの晴れ晴れとした心情とを重ねて表現しています。
- 6 直後に「おれたちは、また堂々と戦おうじゃあないか」とあります。「おれたち」とは、大造じいさんと残雪を指します。
- 7 直前の「晴れ晴れとした顔つきで見守っていました」という表情から、大造じいさんの満足感を読み取ることができます。大造じいさんは、ひきような方法で残雪をうつことをしませんでした。頭領らしく堂々とした態度の残雪のように、自分もまた堂々と戦いをいどむのだと、おねを張っているのです。

- 1 ウ
- 2 例 弾けば弾くほど音が深くなってくるから。
- 3 ウ
- 4 わたしはまばたきをわすれ、父さんはじつと目をしていてた。
- 5 例 すばらしいチェロを作った父さんをほこらしく思う気持ち。
- 6 ⑤ バッハ ⑥ パブロ（さん）  
⑦（お） 父さん
- 7 演奏・時間・つなげて

てびき

- 1 ①は、枝や葉のすき間からこぼれ落ちる、「空」に係するものなので、こもれびだと考えられます。②川の水面に「空のかげら」が「キラキラ」しているということなので、水面に太陽の光が反射しているのだと想像できます。
- 2 直前の「お父さんのチェロは、弾けば弾くほど音が深くなってくる。」に着目します。弾けば弾くほど音がよくなるので、「上達したように感じる」とパブロさんは言ったのです。
- 3 「くような」というたとえの表現に着目します。
- 4 「わたし」は「まばたきをわすれ」、父さんは「目をして」演奏を聞いています。対照

的なようですが、どちらも演奏に心をうばわれていることが分かります。

- 5 パブロさんのかなでるチェロの音に感動した「わたし」は、このすばらしい音を出すチェロを作ったのは父さんなのだと感動し、ほこりに思っているのです。

- 7 最後の「星がめぐるように……みんなをつなげていた。」に着目します。はるか昔のバッハの曲を、父さんの作ったチェロでパブロさんが演奏する様子を見て、音楽には時をこえて人々をつなげる力があると感じています。

- 1 音（の一つぶ一つぶ）・不思議さ  
イ

- 2 例 子どもたちにチェロを教えている。
- 3 （お） 父さん・音・生徒（たち）  
④ または子どもたち

てびき

- 1 すぐ後に「音の一つぶ一つぶが……夢中になっていった。」とあります。チェロを弾くと、チェロから指や手、ひじ、かた、ひざに音が伝わり、美しい音が生まれ出ることに不思議さを感じ、「自分がチェロになったよう」だと思ったのです。
- 2 チェロの音の中には、「ヤマバトのぐぜり」や「川のせせらぎ」や「雪の中の切りかぶ」

といっしょに、「二人」が「いる」のです。チェロを弾くと、昔の思い出と共にパブロさんの演奏やチェロを作ってくれた父さんのことを思い出し、二人と今も音楽でつながっていると感じられるのです。

- 3 直後に「わたしは、子どもたちにチェロを教える道を選んだ。」とあり、「わたし」が今何をしているかが分かります。「職人」だった父さん、「演奏家」だったパブロさんと同じように、音楽にかかわる道を選んだのです。
- 4 音楽は、「わたし」にとって、時間をこえてみんなをつなげてくれるものでした。そして、チェロは、弾くたびに父さんとパブロさんを思い出させてくれるものであり、「わたし」を「子どもたちにチェロを教える道」に導いてくれたものです。また、最後の「父さんが作ってくれた……音を出している。」に着目すると、チェロは父さんや「わたし」と生徒たちをもつなげてくれているといえるでしょう。



夏休みのテスト①

- 1 増加・(しだいに) へってきた
- 2 (1) クロマグロ (2) 非常に少ない・市場価格
- 3 エ
- 4 九
- 5 例 卵から育てたクロマグロが卵を産んだこと。
- 6 完全養殖・成功

てびき

- 1 後の文章に注目します。「マグロを漁獲する国が増加し、と  
りすぎたためにマグロがしだいにへってきました」とあります。  
人間のせいで、マグロが少なくなっていることが問題なのです。
- 2 (1) 「積極的にマグロをふやす」とは、ここではマグロの養殖  
をすることを意味しています。筆者たちは、八種あるマグロの  
うちのクロマグロをふやすことに決めました。  
(2) 二段落目に「漁獲割合は約二%と非常に少ないのですが、  
もっとも大きく成長し市場価格ももっとも高いクロマグロ」と  
説明されています。
- 3 次の二文に「皮ふが弱く、光や音にもびんかんでストレスをお  
こす」「酸素がたくさん必要で、つねに新鮮な海水を求めて泳ぎ  
つづけなければならない」とあります。どれも飼うのがむずかし  
い性質であることを表しています。
- 4 「生けすに飼いつけるのに四年、産卵するまでにさらに五年」  
とあるので、合わせて九年になります。
- 5 「一巡」は、ひとまわりという意味です。「卵から育てたクロマ  
グロ」が「卵を産」むことで、ひとまわりしたと考えられます。
- 6 「積極的にマグロをふやす」と決めてから、「完全養殖」が成功  
するまでの研究の歩みが書かれている文章です。

夏休みのテスト②

- 1 ① いんしょう ② やぶ ③ こころざし ④ しやざい  
⑤ ちようさ・ほうこく ⑥ ふくすう・げんいん  
⑦ りゆうがくせい・まね
- 2 ① 準備 ② 似 ③ 夢中 ④ 喜 ⑤ 祖父母 ⑥ 逆方向  
⑦ 新幹線・往復 ⑧ 理解・確
- 3 ① ウ ② ア ③ イ ④ エ
- 4 ① おっしゃった ② いただいた ③ うかがおう
- 5 ① ア付 イ着 ② ア会 イ合  
③ ア協議 イ競技 ④ ア使命 イ指名

てびき

- 1 ③ 「志す」(こころざす) という読み方も覚えておきましょう。
- 6 「複数」は「二つ以上であること」の意味で、反対の意味の言葉  
は「単数」です。「原因」は「げいいん」と書かないように注意。
- 2 ⑦ 「往」「復」は、どちらも「イ(ぎょうにんべん)」です。「復」  
を「複」とまちがえないようにしましょう。「復」は「帰る・くり  
返す」などの意味で、「回復」「復習」などと使います。
- 3 ① 「鳴」は、「口」と「鳥」を組み合わせて「鳥や虫が鳴くこと」  
を表します。② もえあがるほのおの形からできた漢字です。④ 「サ  
(くさかんむり)」が「草などの植物」という意味を表し、「早」が「ソ  
ウ」という音を表します。
- 4 ① 「言う」の尊敬語は「おっしゃる」、② 「もらう」のけんじょ  
う語は「いただく」、③ 「聞く」「きく(いたずねる)」のけんじょ  
う語は「うかがう」です。元の文の形に合わせて書きましょう。
- 5 ① ア「あとがつく」ときは「付く」を、イ「場所につく」ときは  
「着く」を使います。② ア「人とあう」ときは「会う」を、イ「ぴっ  
たりあう」ときは「合う」を使います。③ アは「協同して議論する」、  
イは「技を競う」という意味です。④ アは「使者として受けた命令」、  
イは「名を挙げて人を指定する」という意味です。

冬休みのテスト①

★ 1 五年生

2 キャプテン

3 イ

4 例 吉野くんはチームのごたごたのめんどうをみてほしいという意味。

5 ウ

6 中心

7 例 だれもキャプテンをやると言わないところ。

★ てびき

1 ガンちゃん、五年生の中から選んでくれや。」という言葉聞いて、「ぼく」は「じゃあ、吉野くんしかいないな。」と言っています。

3 「そんなことまでやらされるんなら、やめちゃうぞ、といわんばかりのようす」から、「ぼく」からキャプテンに推せんされたことに、吉野くんがおこっていることが分かります。

4 「そんな意味で」は、吉野くんの言った言葉「こんなごたごたのめんどうまでみなきゃならないのか」を指しています。

5 「ぼく」の気持ちを読み取れる部分に注目します。「どきまぎして」↓「なにもかも、もうどうでもいいや、というような、ひどく白々とした気分」に変わつたとあります。吉野くんを推せんしたのに、ひどい言い方でこたえられたので、最初はおどろき、次にもうどうなってもかまわないという気持ちになったのです。

7 最後の「(どうして、みんな、『よし、やる!』って、いわないんだ!)」に、「ぼく」の気持ちが表れています。キャプテンが決まらなければ、ブラック・キャットは解散になってしまうのに、だれもキャプテンをやると言わないことにいらだっているのです。

冬休みのテスト②

1 ①の ②こうか ③さいしゅう ④せつとくりよく

5 けんちく・きょうみ ⑥ひょうか・まよ

7 じょうけん・せつてい

2 ①示 ②再 ③基本 ④救 ⑤過程 ⑥組織

7 二酸化炭素・増加 ⑧移動・禁止

3 ①和語 ②漢語

①× ②○ ③○

5 ①急 ▲車 ■指 ②●球 ③●究 ▲者

4 ■市 ▲写

★ てびき

1 ③「採取(さいしゅ)」と混同しないよう気をつけましょう。

2 ②「再」は送りがないにも注意して覚えましょう。④「救」には、「球」「求」といった形の似た漢字があるので注意しましょう。⑤「過程」とは、変化していく道すじのことです。

3 漢字が同じであっても、「訓」で読む言葉は「和語」、「音」で読む言葉は「漢語」です。「大」には、音読み「ダイ・タイ」と訓読み「おお・おお(きい)・おお(いに)」があります。「家」には、音読み「カ・ケ」と訓読み「いえ・や」があります。①は「おおよ」と読み、貸し家の持ち主を表します。②は「たいか」と読み、ある分野で特にすぐれた人のことを表します。

4 ①小学生の読書冊数は、一九九七年、二〇一七年、二〇二二年は前より減っています。②中学生の読書冊数は、一九九二年には二冊ほどでしたが、二〇二二年には四冊以上に増えています。③例えば二〇二二年を比べると、小学生の読書冊数は十冊近く、中学生は四冊を少しこえる程度で、小学生が中学生の二倍以上本を読んでいることが分かります。グラフの長さが同じくらいに見えるのは、左側の目まりの取り方がちがうためです。



学年末のテスト①



1 品種改良の目的

2 ①例じゆくしても粒が落ちないように(改良した)。  
②または収穫しやすいように(改良した)。

②例いつせいに芽をだすように(改良した)。

3 利用できる・大きく、りっぱ

4 イ

5 例いま、わたしたちが食べるものは、ほとんどない。

6 生産を高める



てびき

1 問いかけの文に注目すると、文章の話題がとらえやすくなります。一段落目に「品種改良の目的は、なんだったのでしょうか」とあるので、「品種改良の目的」について述べようとしていると分かります。

2 ①「じゆくしても落ちないように」改良してきたと説明されています。「収穫しやすいように」としても正解です。

②「いつせいに芽をだすように改良しました」とあります。

3 六段落目に注目します。「野性種と栽培種の大きなちがい」について、「人間が利用できる部分が、野性のもよりも大きく、りっぱになっていること」とあります。いまわたしたちが食べている野菜や果物は、食べられる部分をより大きく、よりおいしくしたものなのです。

4 ニューギニアのジャングルのバナナは野性種です。この筆者の経験から、野性種は食べ物にならないと分かります。

5 野性種のバナナの例の後に「もしも、このような改良がなかったら、いま、わたしたちが食べるものは、ほとんどないといえます。」と筆者の考えを述べています。

6 ③の例を挙げる前に、「生産を高めるためにも、さまざまな改良がおこなわれています。」と述べています。

学年末のテスト②



1 ①かい ②えいきゅう ③ぼうはん ④ゆにゅう

⑤こうし・しどう ⑥しょうねんだん・ひき

⑦えいぎょう・りえき



2 ①精力的 ②平均 ③災害 ④燃 ⑤事務 ⑥損害保険

⑦消毒・習慣 ⑧周囲・農耕地帯



3 ①(順序なし)王様・番組・本屋

②(順序なし)場所・手順



4 ①やおや ②かわら ③まいご ④しみず ⑤くだもの

⑥へた ⑦めがね



5 ①べんとうばこ ②あかしんごう ③ほそながい

④とびおきる



てびき

1 ①「快」の訓読みは「こころよ(い)」です。送りがないにも注意して覚えましょう。⑥「率いる」は送りがないのでしっかり覚えておきましょう。

2 ①「精力的」とは、「気力、体力に満ちあふれた様子」という意味です。⑥「険」と「検」の使い分けに注意しましょう。「険」には「危険」「冒険」などの熟語があります。「検」には「検査」「検証」「点検」などの熟語があります。⑦「毒」「慣」の「母」の部分を「母」と書かないように注意しましょう。

3 「王様」の「王」、「本屋」の「本」は音読みです。「本屋」の「屋(や)」は訓読みで、音読みは「オク」です。「場所」の「場(ば)」は訓読みで、音読みは「ジョウ」です。「手順」の「手(て)」は訓読みで、音読みは「シュ」です。

5 いくつかの言葉が結び付いて複合語になるとき、元の言葉と発音が変わったり、形が変わったりすることがあります。①「弁当」と結び付くことで、「箱(はこ)」の発音が「ばこ」に変化します。

# 実力判定テスト

## 答えとてびき

### 漢字リレー①

20 妻	19 貯	18 混ぜる	17 歴史	16 囚	15 属	14 告げる	13 移す	12 増減	11 液	10 領	9 測る	8 酸素	7 講演	6 貸す	5 採る	4 囲む	3 興	2 圧	1 団
40 眼	39 桜	38 賛	37 志す	36 義務	35 殺す	34 応	33 可燃	32 張る	31 際	30 堂	29 士	28 築	27 益	26 導く	25 確かめる	24 快適	23 経営	22 再	21 衛
60 毒	59 基	58 似る	57 救う	56 枝	55 幹	54 犯罪	53 得る	52 版	51 資	50 状態	49 制限	48 刊	47 支える	46 格	45 責任	44 謝	43 逆	42 河	41 統
80 非	79 質	78 寄る	77 判断	76 布	75 授	74 旧	73 肥やし	72 防災	71 序	70 比べる	69 修める	68 破損	67 飼う	66 紀	65 独り	64 師	63 準備	62 貧しい	61 慣れる

### 漢字リレー②

100 粉	99 賞	98 貿易	97 許す	96 招く	95 永久	94 武	93 述べる	92 居	91 婦	90 禁	89 編む	88 証	87 評価	86 報	85 総額	84 句	83 費	82 舎	81 喜ぶ
120 型	119 脈	118 豊か	117 性能	116 情け	115 職	114 険しい	113 仮設	112 墓	111 象	110 迷う	109 精	108 個	107 保護	106 均	105 暴れる	104 織る	103 境	102 仏	101 現在
140 綿	139 接	138 輸	137 税	136 容	135 航	134 鉦	133 厚	132 績	131 製造	130 夢	129 勢い	128 故	127 術	126 弁解	125 複雑	124 潔	123 略	122 祖	121 提示
		158 銅	157 程	156 技	155 率いる	154 構え	153 常識	152 絶える	151 過ぎる	150 往復	149 像	148 効	147 財政	146 停留	145 検査	144 余る	143 条件	142 規則	141 耕す